

第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

団体名	能登の森里海研究会
活動タイトル	七尾湾の環境改善に向けたアマモの増殖活動
活動地域	七尾湾



5/16・アマモ花枝の流出開始を確認

【活動の目的・目標】

前年に取り組んだ発芽率の向上対策や新たな播種方法の検討成果等を活用して多数の実生苗を群生させる。さらにこれらの生育過程を詳しく観察し、実生苗が播種翌年に開花して結実枯死するか（1年生の生態を示すか）、開花せずに株が発達するか（多年生の生態を示すか）を明らかにする。



6/25・4回目の花枝収集 採集量累計 88.5Kg

【今回の活動で苦勞した/工夫したこと】

今年は昨年（80.5Kg）を上回る量（88.5Kg）の花枝を採集したにもかかわらず、結果的に種子の採集量は昨年（15万粒）を大きく下回る6万粒にとどまった。この原因としては、花枝を水槽内で成熟させる段階で、猛暑の影響により水温が非常に高い状態（34℃以上）に上昇したことが一因ではないかと考えられた。



8/1・水槽で成熟させた種子の回収作業

【活動の内容・成果】

開催回数：花枝採集4回

参加人数：12名

達成率：採集回数80%（採集種子数40%）

上期では、播種活動に用いるアマモの種子の確保を目標に、5月上旬からアマモの生育状況の確認を開始し、適期を待って6月上旬から下旬に花枝の回収を行った。採集した花枝は水槽に收容して種子を成熟させ、8月初めに種子の回収を行った。花枝の回収と種子の回収には航空高校石川潜水部の協力をいただいた。この結果、4回の回収作業で計88.5Kgの花枝を採集し、6万粒の成熟種子を得ることができた。花枝の量に対して得られた種子数が少ない結果となったのは、今夏の猛暑が影響した可能性がある。

【団体概要】

能登の森里海研究会は、「能登の里山里海」として世界農業遺産に認定されている能登半島七尾湾において、近年減少が進行しているアマモの増殖を図るため活動を行っている。主な活動内容は、効果的なアマモの播種方法の開発及びアマモ生育実態に関する知見の収集である。

第32回イオン環境活動助成 活動報告書（上期）

報告対象期間：2023年4月1日～2023年9月30日

こちらに、1ページ目の以外の活動写真を添付し、右側に説明をご記入下さい。



5/31 アマモの花枝を収容して種子を成熟させるための水槽（総容積約 1,300ℓ）と給水設備を準備した。各水槽にはブロアーでばっ気を施し、1日あたりタイマーで8回海水を給水して水槽水が約3程度回転するように設定した。



6/7 西風により七尾西湾の東岸に漂着したアマモ花枝を収集した。収集量は 35Kg で、これらは陸上水槽に収容して種子の熟成を待った。



6/15 七尾西湾の代表的なアマモ群落を巡回して、アマモの生育状況を観察した。その結果、多年生株の減少がうかがわれ、多年生株からの花枝の伸長は観察されなかった。また単年性株も海面まで延びる花枝は僅かしか観察されなかった。

